

目 次

馬事往来

- 旧根岸競馬場の建築と現状 始まり・現在・未来…………… 笠井三義…………… 1
宮古島と馬のつながり…………… 増田未央子…………… 9

馬事資料

- 人物日本近代馬術史試論（その1）…………… 池田 収…………… 14

学術集会

- 日本ウマ科学会第37回学術集会 臨床委員会企画招待講演について…………… 宮越大輔…………… 28
馬の絵画，写真，彫刻の展示会を企画…………… 倉田タカユキ…………… 33
日本ウマ科学会第37回学術集会 優秀発表賞受賞者紹介…………… 43

学会記事

- …………… 44

- 協賛団体・賛助会員名簿…………… 53

編集後記，訂正（Hippophile No. 99）

Hippophile No. 100

- 編集委員 -

編集担当常任理事・編集委員長	楠瀬 良（日本装蹄協会）
編集委員	阿部 憲二（全国乗馬倶楽部振興協会）
	末崎 真澄（馬の博物館）
	明石祐一郎（地方競馬全国協会）
	関 正喜（ジャーナリスト）
	荒川由紀子（サラブレッド・アフターケ ア・アンド・ウェルフェア）
	戸崎 晃明（競走馬理化学研究所）
	永井富美子（エディター）
	有吉 正徳（競馬ライター）
	沼田 恭子（NPO 法人引退馬協会）
	北野あづさ（日本馬術連盟）
	古林 英一（北海学園大学）
	木村李花子（東京農業大学）
	三浦 暁子（エッセイスト）
	近藤 誠司（北海道大学）
	守谷 久（ジャーナリスト）
	近藤 高志（JRA 競走馬総合研究所）
	山下 大輔（日本馬事協会）

表紙絵：騎手（The Jockey）：アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック（1864-1901）1899年 49.8×34.1センチ多色刷り
リトグラフ 馬の博物館蔵

「騎手」は、晩年に近い療養中に一連のサーカスシリーズとともに表した作品である。ロートレックは、少年の頃に父親とともに乗馬をし、競馬場にもしばしば通った経験があり、晩年に再びその情景を思い巡らしている。後ろ姿の騎手は、あるいは馬と競馬を愛した父と自分の姿を映し出しているのかもしれない。

日本ウマ科学会

Japanese Society of Equine Science